

## 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立 原山台 中学校  
校長 吉野 竜太

中学校区におけるめざす子ども像

**愛：「人とのつながりを大切にできる子ども」      学：「自ら考え、学び続けることのできる子ども」      健：「自分のよさを発揮することのできる子ども」**

令和8年度 重点目標

～新しい時代に向かってじりつ（自律・自立）できる子どもの育成 誰一人取り残さない温もりのある教育の推進～

- ① 学習指導要領の趣旨や内容を踏まえた学習指導の充実。子どもたちが大人になるための実力をつけるため各教科における学力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の向上を図る。
- ② 相手を思いやることのできる心を育てる特別活動、総合、道徳授業の充実。様々な人の生き方や多様な考え方にふれる授業等を通して、人間関係を築く力やお互いの人権を守ること等考える学習の工夫。
- ③ 探究的な学びの推進。各教科との関連、ICTを活用した対話的、協働的な学びにより、主体的に学びに向かう態度を育てる。

「確かな学び」の現状

令和7年度大阪府中学校チャレンジテストの結果においては、府平均程度またはやや下回る。また、チャレンジテストアンケート調査では、ほとんどの項目で肯定的な回答が府平均程度またはやや上回る結果であるが、「難しいことがあっても、あきらめない」の項目は府平均を下回っている。一方、授業では大半の生徒が前向きに学びに向かい、学校自己診断アンケートでも「学習意欲がある」という項目は約80%である。そして約90%の生徒が授業に関する質問で肯定的な回答をしている。「自ら考え、学び続けることのできる子ども」を育成するため、社会生活に繋がる探究的な学びにむかう授業改善をさらに進め、新しい時代にむけて、じりつ（自律・自立）できる子どもの育成をめざす。

「豊かな心・健やかな体」の現状

令和7年度「学校自己診断アンケート」では、生徒はすべての項目で80%以上の肯定的回答が得られている。特に人権尊重や命の大切さ、社会ルール、SNSの使い方、学校行事、食の大切さ、インターネットの活用等の項目では90%以上の高水準で、ほとんどの生徒が基本的な生活習慣が確立しており、自己肯定感が高く、落ち着いた学校生活を送れている。一方、保護者の感覚は、生徒と比較し10%程度下回っている。これは、不登校生徒の割合が高いという現状課題とリンクする部分があるかもしれない。対話的、協働的に考えさせる場面の充実、課題解決に向けて自ら律し自己調整を促す教育をさらに進め、心と体を調整する力を身につけ、自己表現できる健康な子どもの育成をめざす。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び(学)	授業改善 学習のリズム	・探究的な学びにむけての授業改善と研修。楽しさから生まれる深い学びができる授業をめざす。  ・子どもの学習意欲をそそる一人1台パソコンの活用。個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。	★小中一貫教育の推進をめざした小中連携による授業づくり研修を実施する。	校内研修に関する肯定的な回答 80%以上	職員アンケート	年度末			
			●各教科のつながりを考えた探究的な学びのスタイルを確立させる。	学ぶ意欲が向上したことに対する肯定的な回答 80%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
豊かな心(愛・健やかな体(健))	心のリズム 生活のリズム	・「いのち」を考える人権総合学習の取り組みから自己有用感や相手を思いやることのできる心を育てる教育の充実を図る。  ・心身ともに健康であるとともに安全で安心した学校生活を送ることができるといじめを許さない、不登校生を作らない学年・学級活動や生徒会活動、総合的な学習の充実をはかる。	●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくり。お互いを認め合える場面、自己存在感を感じる活動の工夫を行う。	「クラスでは自分の意見が言える場面がある」に対する肯定的な回答 90%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
			●「いのちの授業」「防災学習」等を実施することにより、自分も他者も大切にすることについて考える取り組みを行う。	「人権を尊重する事、いのちの大切さ等について学んでいる」に対する肯定的な回答90%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
見せる学校(信)	発信の充実・地域連携	・学校の情報を正確かつ適切に発信し信頼される学校づくりを行う ・地域活動への参加による信頼される学校づくり。	●自己表現ができる活動を取り入れた授業づくりからお互いを認め合える場面が見える活動、いじめを見逃さない教室環境づくりを行う。	「クラスでは自分を表現できる場面がある」「困ったときに気軽に相談できる先生や友だちがいる」に対する肯定的な回答が85%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
			●各学年2クラスを生かした「たてのつながり」を高める活動の充実。自己調整力を表現できる場面づくりを行う。	「各行事で、縦割りの取り組みや異学年と交流できてよかった」に対する肯定的な回答90%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
			●teroruとHPと各通信による情報発信を確実にし、情報提供を行う。	「ホームページや teroru 等で家庭への連絡を適切に行っている」に対する肯定的な回答90%以上	学校自己診断アンケート	年度末			
			●原山まつり、清掃活動等の地域活動への生徒の主体的な参加を推進する。	「地域の活動に積極的に参加している」肯定的な回答 80%以上	学校自己診断アンケート	年度末			

校長より (年度末)

学校関係者評価者から (年度末)